

岐阜県立可児工業高等学校

学 校 長 林 千尋

学校住所 可児市中恵土2358の1 電話 0574-62-1185

1 会議の名称 平成24年度可児工業高等学校学校評議員会 (第1回)

2 会議の構成 委 員 一枚田キヨ江 会社役員
高橋 知久 可児市中恵土自治会連合会長
藤田 幸夫 (株)甲山製作所社長
山口 清江 可児市青少年育成アドバイザー
渡邊 治 可児市下恵土自治会連合会長
(委員名五十音順)

学 校 側 林 千尋 校長
井戸 好彦 教頭
藤井 健二 事務長
広瀬 和生 教諭 (教務部長)
兼松 竹司 教諭 (生徒指導部長)
水野 茂之 教諭 (進路指導部長)
酒井 眞二 教諭 (工業部長)

3 会議の目的 岐阜県立可児工業高等学校評議員会設置要綱に基づき、平成24年度の教育方針・重点及び学校課題を説明し、それについての幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成24年7月12日(木) 13:10~15:10 可児工業高等学校校長室
委員5人と学校側7人が出席

5 会議の概要

(1) 学校長挨拶 学校評議員の委嘱

新学習指導要領の実施を控え、岐阜県教育ビジョンのもと可児地区唯一の工業高校として、その使命と存在意義を具現化しものづくり産業の発展を支える「伸びしろの大きい」地域社会から期待される人材の育成に取り組んでいる。そのためにも社会や生徒の変化に機敏に対応出来る職員組織のマネジメントにも取り組んでいる。評議員の皆様から地域や社会の意見を直接お聞きし、さらに信頼され期待される学校づくりを目指したい。

(2) 授業参観

第5限の全クラスを対象に実施、実習室では1年生の工業技術基礎や、教室では3年生の普通教科などを中心に参観して頂いた。

(3) 学校の近況と課題の説明

教 務 部：義務教育段階での基礎基本を学び直し、定着させようと1・2年生を対象にマナトレ補習を実施している。来年度からは国公立大学への進学にも対応できるような教育課程の編成を検討している。

生徒指導部：近年は落ち着いた学校生活を送っている。専門高校として基本的生活習慣の指導を重点目標とし、特に遅刻防止については学校一丸となって推進している。今年度になってからも極めて少なく県下でもトップクラスである。

進路指導部：求人数はここ数年減少し続けている状況であるが、他校に比べれば恵まれた状況である。社会に受け入れられ活躍できる進路選択に向け計画的な指

導を目指している。また幅広い進学対応についても充実させている。

工業部：ものづくりの楽しさを通して、社会の一員として逞しく生きていける人づくりを目指している。コミュニケーション能力の向上のため、各種イベントなどに積極的に参画しながら地域との交流を図っている。

(4) 協議 テーマ「授業参観の感想と学校への提言」

意見 1 1年生工業基礎の実習は、全員が真剣に取り組んでおり子供達の意気込みが感じられた。半田付け実習を行っていたが、社会に出てからも基礎技術はいろいろな場面で役立つと思う。

意見 2 いろいろな実習に真剣に向かい合う姿はとても新鮮に感じた。高卒でも大卒でも入社した時の一番の売りは「若さ」である。失敗を恐れず挑戦するところに若さの良いところがある。

意見 3 学校も生徒達も目標を持って取り組んでいる姿が良い。人が脱皮する条件は目標を定めて100%達成するところにある。学校目標も指針を明確にして取り組むことが必要だと思う。

意見 4 どの科も技能士検定や資格取得に積極的に取り組んでいた。会社においても社員の資格取得は重要で、積極的に推奨し費用についてもバックアップしているところが多いと思う。取得後は給料や昇進にも影響している。多くの資格取得は費用面でも難しいが、目標に向かって取り組む気持ちが良い結果につながると思う。

意見 5 遅刻防止など基本的な生活習慣指導は大切である。新入社員でもこの意識がないと社会生活について行けなくなり辞めてしまうケースもある。

意見 6 教室での授業で寝ている子がいた。昼食後の眠気の来る時間帯でもあったが、一人の生徒も居眠りをさせない指導や工夫が必要だと思う。

意見 7 自分たちの学生時代に比べ、先生方はやさしく熱心に感じられる。子供達の変化は大きい、企業はいつも元気で頑張れる卒業生を期待している。

意見 8 厳しい社会情勢で企業からの求人も激減しているようですが、工業高校に期待するものはまだまだ大きい。入学希望者の減少が心配なようですが、「可児工業高校で頑張れば一生安心だ」と広くPRして頑張ってもらいたい。

意見 9 地域活動でも高校生に期待するところは大きい、歴史的価値の高い建造物や城跡などこの地域には工業高校生の力を借りて伝承したいものが多くあり、今後も互いに協力して連携していきたい。

意見 10 地域では、こども見守り隊や交通安全協会などが、事故防止を呼びかけ活動しているが、高校生の交通マナーについては心配をする声が多い。事故がおきてからでは遅い、交通ルールの厳守は学校でも強く指導して欲しい。

6 会議のまとめ

- ・本校が落ち着いた状況で教育活動を展開できていることは、評議員の方々のご意見からも伺うことが出来たが、これからの充実発展に大きな期待と要望があることも確認できた。遅刻0運動が成果をあげているが、これをどのように繋げ成長させるかに象徴されるように本校の課題は大きいと感じた。
- ・本校に対する地域からの期待も大きく、地域活動は今後もより充実した意義のある取り組みにする必要がある。教育活動の一環として位置づけ、その目的を明確にすることで生徒にとってもやり甲斐のある活動としたい。
- ・交通事故防止については重要な課題で、「ルールを守る」ことの大切さを学校生活視点ではなく、社会生活視点から徹底する必要がある。このことが教育目標である「生きる力」を育む原点と位置づけていきたい。